

令和 元 年度 福岡市立 [愛宕浜小] 学校 学校評価実施状況(公表用)

| めざす学校像・子ども像・教員像 | 課 題 | 今後の改善方策 |
|--|-----------------------------|---|
| <p>【めざす学校像】○元気なあいさつが響き合い清掃が行き届いた学校 ○教師と子供相互が信頼し合い和やかさの中にも規律ある学校 ○子供一人一人を全職員で見守り育てようとする学校</p> | <p>確かな学力の向上</p> | <p>○主体的・対話的で深い学びの実現 ・ICT活用による学ぶ意欲の向上 ・学び合い活動の重視 ・振り返り時間の確保 ○学力向上サイクルの確立(中間テストの有効活用) ○外国語科・活動の研究推進 ○読書習慣の確立(帯タイムの活用)</p> |
| <p>【めざす子供像】○相手の立場を理解し, 他者と協力して共に伸びる子供 ○自ら学習に取り組み, よく考え, 創意工夫する子供 ○心身の健康づくりに励み, 明るく元気に行動する子供</p> | <p>豊かな心の育成と 人間関係づくり</p> | <p>○いじめ・不登校等の未然防止・即解決に向けて, 学級経営及び生徒指導の充実 ・対人関係を育む学級活動や考え議論する道徳の推進 ○「Let's TRY ～自分から～」自主性を育む全校的な取組の進化・継続</p> |
| <p>【めざす教員像】○一人一人の子供に, 公平に温かく愛情を持って接する教職員 ○指導力を磨き, 子供のできた喜びを自分の喜びにできる教員 ○組織の一員として学校経営方針の具現化に参画する教職員</p> | <p>信頼される開かれた 学校づくり</p> | <p>○家庭・地域との連携・共有強化 ・情報発信と情報共有 ・魅力ある参観・懇談づくりへの取組 ○いじめ・不登校等諸事案に対する組織的対応力の強化 ○指導力向上に向けた教員研修の充実と働き方改革の推進</p> |

| 重点目標 | 指標(取組指標・成果指標) | 達成状況についての説明 |
|--|--|---|
| <p>確かな学力の向上</p> | <p>自ら学ぶ意欲の向上を図る。進んで学習に取り組んでいると肯定的回答をする児童80%を達成する。 言語活動の充実を図る。自分の思いや考えを表現できていると肯定的回答をする児童82%を達成する。 高学年を中心に, 学期に1回以上, 学年合同・少人数分割・一部教科担任制・担任交換授業を実施する。 外国語の授業改善をすすめる。進んでコミュニケーションをしていると肯定的回答をする児童82%を達成する。</p> | <p>・担任を中心に「自らが学ぶ主体」と伝え続け, 高学年の問題解決学習や家庭自学学習の取組等が功を奏してきた結果, 児童の自己評価達成率は92%となった。 ・授業中に考えを伝え合う時間を意図的に設定するようになってきた結果, 児童の自己評価達成率は83%となった。 ・高学年算数科を中心に専科教員・低学年担任も含めて学年合同・少人数分割授業等に取り組むことができた。 ・先進的な取り組みを進めている外国語活動や外国語の授業については研究を重ね, コミュニケーションの喜びを実感する学習活動の工夫を行ってきた結果, 児童の自己評価達成率は88%となった。</p> |
| <p>学級経営の充実 (生徒指導の徹底と 人間関係作り)</p> | <p>挨拶指導の徹底を図る。児童の自己評価・保護者評価において肯定的回答の割合82%を達成する。 清掃指導の徹底を図る。児童の自己評価・保護者評価において肯定的回答の割合82%を達成する。 友達と協力するよさを実感させ, 思いやりのある行動ができていると肯定的回答をする児童80%を達成する。 毎月の全校朝会で, 個人目標・月目標等個人や学級の頑張りを称賛する場を設定し, 意欲の向上を図る。</p> | <p>・挨拶に関しては, 児童・保護者評価共に目標82%を達成できた。今後は個人差があることや学校外での挨拶の仕方等も意識させた取組を検討していきたい。 ・トイレ掃除を中心に清掃指導の仕方を共通理解し, 全校放送で呼びかける等徹底を図った結果, 児童自己評価達成率89%であった。保護者評価は80%である。 ・学習や生活場面で児童が協力して活動する場面を設定したり, トラブル等が発生した際には児童自らが今後の行動について考えるようにさせてきた結果, 児童の自己評価達成率は全学年とも85%を超えることができた。 ・毎月の全校朝会で頑張りを称賛する場を設定できた。</p> |
| <p>信頼される開かれた 学校づくり</p> | <p>毎日, 児童の登校状況や様子を確認し, 関係職員で不登校未然防止に向けた組織的取り組みを行う。 全教員が年間2回研究授業を行い, 個々の指導力・学級経営力を向上させ, 児童の指導・支援に生かす。 原則月1回, 参観・懇談・面談等保護者と情報共有する機会を設定する。普段から機を捉えて連絡・連携する。 各学年2回以上外部人材をゲストティーチャーとして招聘し, 地域・社会と連携した教育活動を積極的に創り出す。</p> | <p>・毎朝児童の登校状況・様子等を確認し, 不登校傾向児童には家庭訪問を行う等担任を中心に, SC・SSWも含めた関係職員で組織的・継続的に対応は行ってきた。今後も継続して個別対応していきたい。 ・全教員が年間2回研究授業を行い, 自身の指導力・経営力向上に努め, 児童の指導・支援にあたることができた。 ・計画通り, 参観・懇談・面談等保護者と情報共有する機会を設定できた。懇談会の出席率向上が課題である。 ・各学年2回以上, 外部人材に学ばせていただくことができた。日々の学習の上に, 地域や社会で活躍されている方と出会えることは児童にとって意義深い時間となった。</p> |

学校関係者評価についての説明(評価委員からの意見・要望・改善に向けた提言等)

・ 学校長を中心に先生方のチームワークのよさが, 子供によい影響を与え, 落ち着いた学校生活を送ることができている。特に最高学年である6年生は, 学校内での頑張りはもちろん, 地域においても評価できる姿を見せてくれている。

・ 地域から見ていても, 子供の姿を通して学校力が上がっていることを感じる。さらに取組を進めてほしい。

・ 挨拶に関しては以前に比べ良くするようになってきたと思うが, もう少し元気があってもよい。

・ 自己表現がやや苦手な子供たちが多いということで, 交流活動を取り入れたり人前で発表したりする取組を進めてきてあるが, 残念ながら一人一人の声がまだ小さい(子供が多い。)自信をもって聞こえるような声で発表できるようさらに指導を進めてほしい。